

(5) 動植物の生息または生育、植生及び生態系の状況

1) 動物

事業計画地周辺の広域的な哺乳類の分布状況について、図 2-2. 10(1)及び(2)に示す。これによると、アナグマ、イノシシ、キツネ、ニホンザル、ニホンジカ及びタヌキが確認されている。

事業計画地周辺の動物相の状況について、表 2-2. 32～表 2-2. 33、図 2-2. 11 に示す。

宇治市内では、「天ヶ瀬ダム 暮らしを支える“まちのオアシス”」（国土交通省淀川ダム統合管理事務所天ヶ瀬ダム管理支所）によると、天ヶ瀬ダム湖及び周辺では、哺乳類ではホンドリカ及びタヌキ等 7 目 12 科 19 種、鳥類ではカワウ、オシドリ、メジロ、ホオジロ等の多数の水鳥や小鳥が確認される等、多様な動物相の存在が確認されている。また、「第 4 回自然環境保全基礎調査 京都府自然環境情報図」（平成 7 年 環境庁）によると、宇治塔川付近においてコシアカツバメ及びヒメアマツバメの集団ねぐらが確認されている。

地元有識者の情報によると、宇治川周辺では夏鳥であるツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ及び一部留鳥のヒメアマツバメの越冬個体が確認されている。「関西の駅のツバメの巣調査」（平成 24 年 大阪市立自然史博物館）によると、調査した平成 24 年は京阪宇治駅でツバメ及びコシアカツバメの営巣が確認されている。ヒメアマツバメはコシアカツバメの古巣を営巣場所として利用する習性があり、宇治市内や京都市内において、実際にそのような営巣している状況が見受けられる。

なお、事業計画地においては、20 数年前にヒメアマツバメが営巣時期に目撃されている。現在も折居清掃工場の敷地内にコシアカツバメの古巣が数か所残っているが、ヒメアマツバメは目撃されていない。

城陽市内では、「城陽市動植物環境調査報告書 [公表版]」（平成 13 年 城陽市）によると、鴻の巣山一帯及び大谷川上流では、社叢林、二次林、公園、河川沿い及び住宅地等の環境に生息する動物相が確認されている。

表 2-2.32 事業計画地周辺の動物相（天ヶ瀬ダム湖及び周辺）

分類群	種数	代表的な種	重要種
哺乳類	7 目 12 科 19 種	ホンドリカ、タヌキ等	ムササビ、カヤネズミ等 6 種
鳥類	18 目 41 科 113 種	カワウ、オシドリ、メジロ、ホオジロ等	オシドリ、ミサゴ、ヤマセミ、カワセミ、サンショウクイ等 61 種
爬虫類	2 目 7 科 15 種	カナヘビ、シマヘビ、イシガメ等	12 種
両生類	2 目 6 科 12 種	—	ヒダサンショウウオ、タゴガエル、モリアオガエル等 10 種
陸上昆虫類	25 目 433 科 4091 種	アオスジアゲハ、ジャノメチョウ、ゲンジボタル、カブトムシ、ゴマダラカミキリ等	ナカハラヨコバイ、ナガミズムシ、クロヒカゲモドキ等 83 種
魚類	8 目 16 科 52 種	コイ、オイカワ、カワムツ、カマツカ等	スナヤツメ、カネヒラ、アジメドジョウ、ビワコオオナマズ等 37 種
底生動物	27 目 285 種	カゲロウ目、トビケラ目、ハエ目等	ナカセコカワニナ、マルドブガイ、セタシジミ、ヨコミゾドロムシ等 30 種

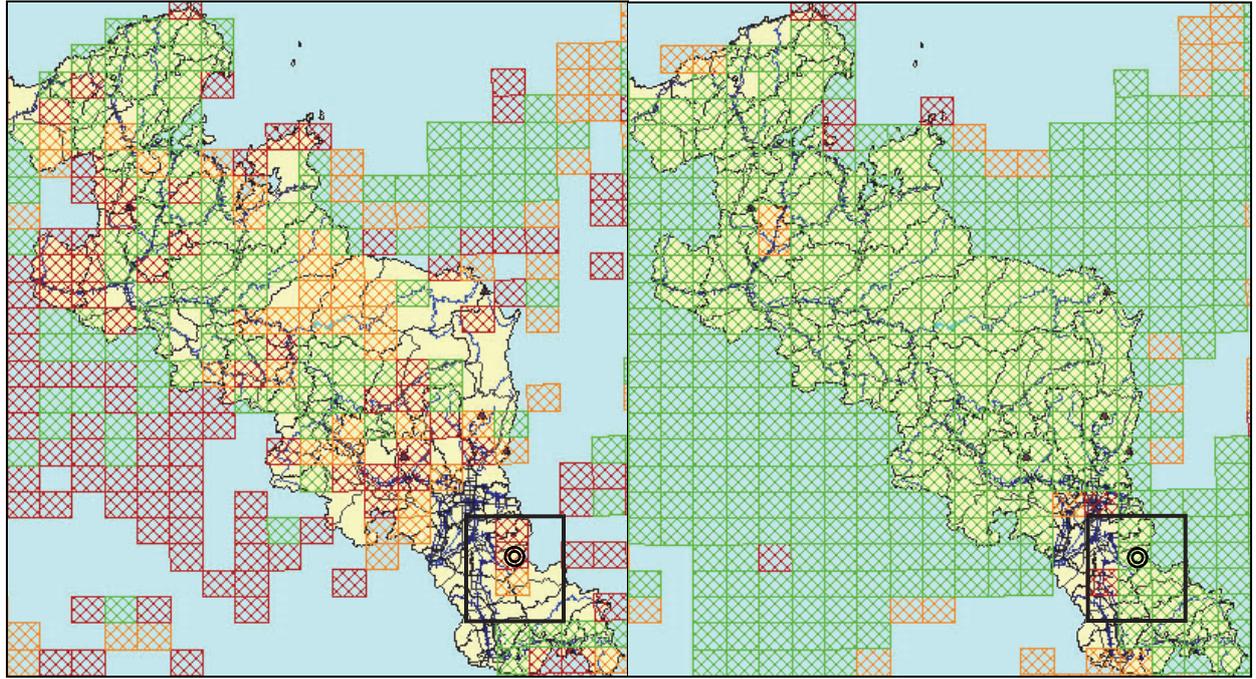
出典：「天ヶ瀬ダム 暮らしを支える“まちのオアシス”」

表 2-2.33 事業計画地周辺の動物相（鴻の巣山一帯及び大谷川上流）

分類群	種数	主な確認種
哺乳類	2 目 2 科 2 種	ノウサギ、アカネズミ
鳥類	5 目 17 科 31 種	ゴイサギ、カルガモ、コシアカツバメ、キセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、トラツグミ、エナガ、ヤマガラ等
爬虫類	1 目 4 科 4 種	ヤモリ、トカゲ、カナヘビ、シマヘビ
両生類	1 目 1 科 2 種	ニホンアカガエル、ウシガエル
陸上昆虫類	16 目 135 科 389 種	アオモンイトトンボ、オニヤンマ、オオカマキリ、エンマコオロギ、カネタタキ、ツマグロスケバ、クマゼミ、オオヒラタゴミムシ、エンマムシ、キオビツチバチ、シベリアカタアリ、ベッコウガガンボ、オオイシアブ、キマダラセセリ、クロアゲハ等
魚類	1 目 1 科 2 種	コイ、ギンブナ
底生動物	7 綱 9 目 19 種	サカマキガイ、ドブシジミ、ユリミミズ、ミズムシ、フタバカゲロウ属の一種、アメンボ、ユスリカ属の一種等

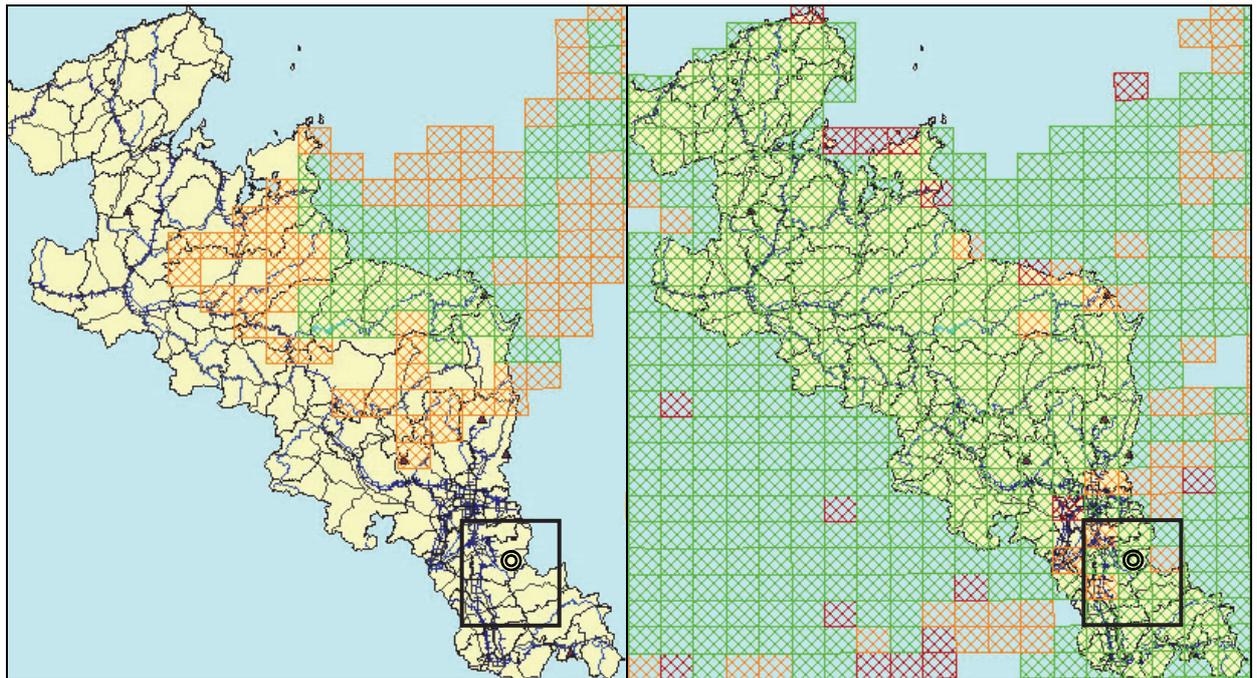
注. 重要な種の確認状況は非公開となっているため、詳細は不明である。

出典：「城陽市動植物環境調査報告書[公表版]」



アナグマ

イノシシ



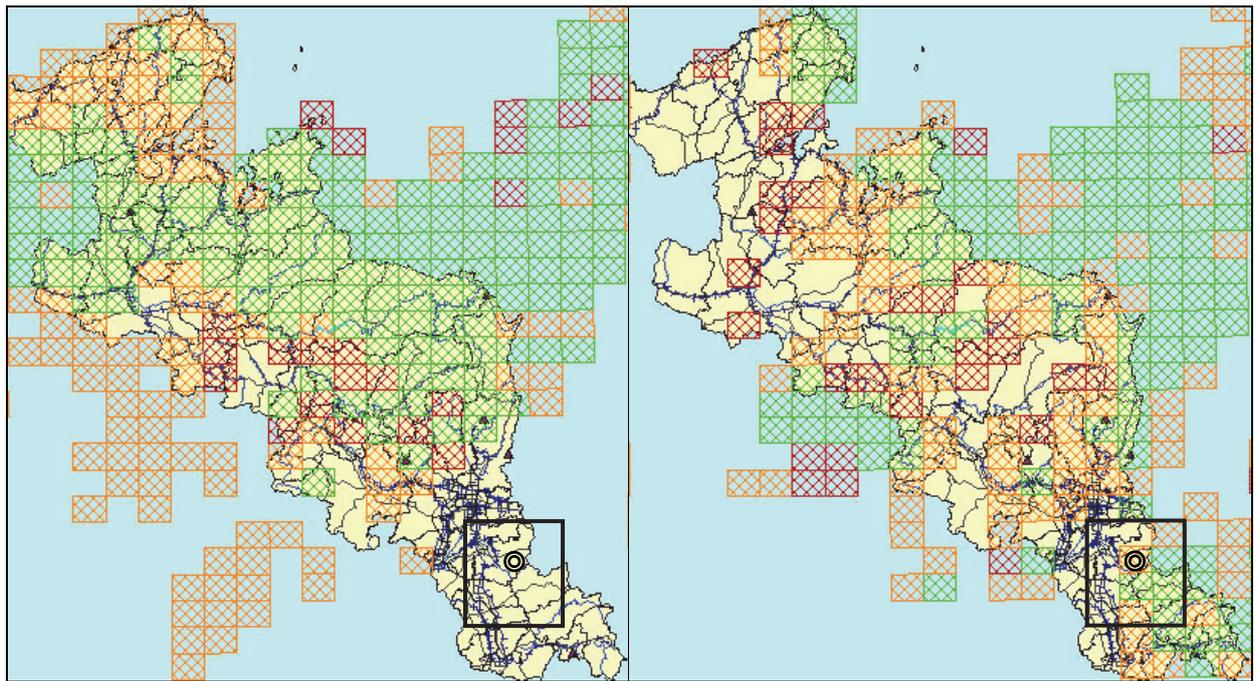
カモシカ

キツネ

凡 例	
◎	事業計画地
	第2回調査のみ確認
	第6回調査のみ確認
	第2回と第6回で確認

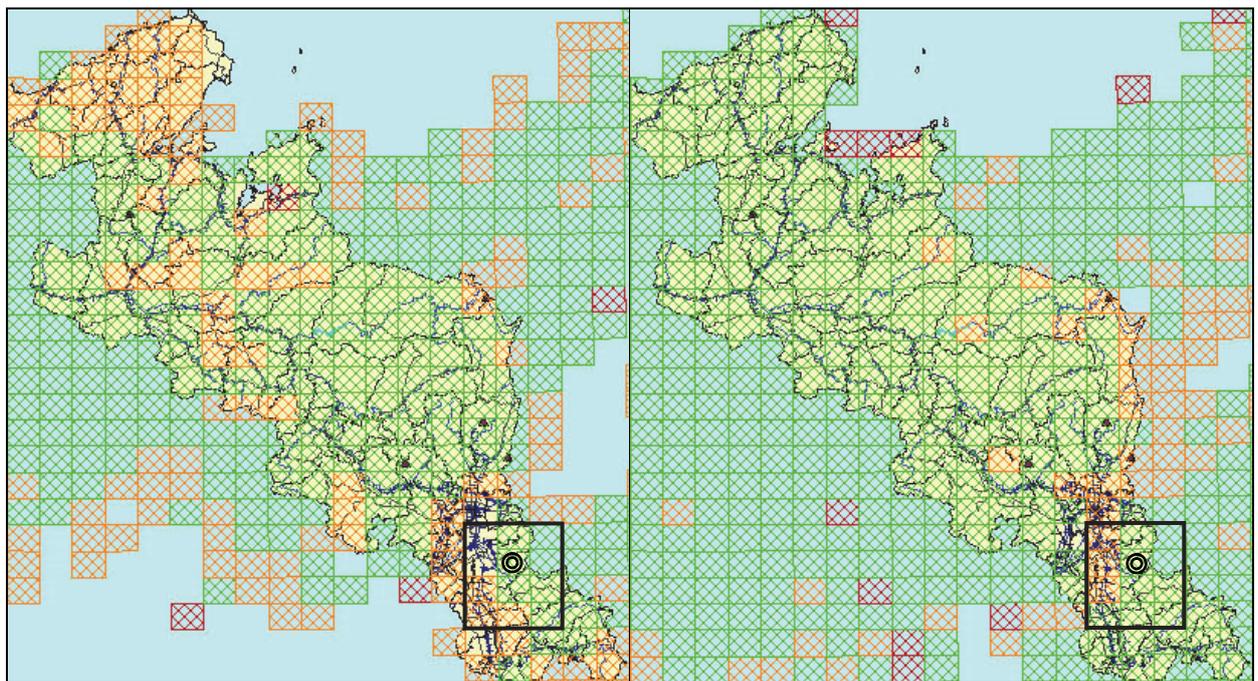
出典：「第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査」（昭和53年度環境庁）及び「第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査」（平成12～16年度 環境省）の成果を使用した。

図 2-2.10(1) 哺乳類の分布状況



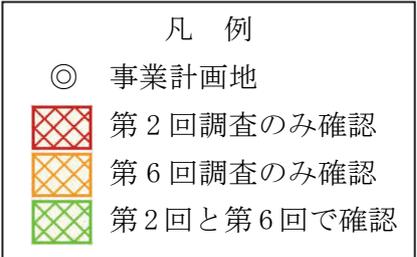
ツキノワグマ

ニホンザル



ニホンジカ

タヌキ



出典：「第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査」及び「第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査」の成果を使用した。

図 2-2.10(2) 哺乳類の分布状況



図 2-2.11 事業計画地周辺の動物・植物相の状況

2) 植物

① 植物相

宇治市内では、「天ヶ瀬ダム 暮らしを支える“まちのオアシス”」によると、天ヶ瀬ダム湖及び周辺では157科1170種の植物が確認されており、重要種としてはマルバノサワトウガラシ、オオヒキヨモギ、ナツエビネ等101種が確認されている（図2-2.11参照）。

城陽市内では、「城陽市動植物環境調査報告書[公表版]」によると、表2-2.34に示すとおり、鴻の巣山一帯及び大谷川上流で105科418種の植物が確認されている（図2-2.11参照）。鴻の巣山では、社叢林や二次林も存在するが公園化されているため逸出種や帰化種が比較的多く確認されている。大谷川上流では、人為的影響の中でも生育できる在来種や帰化種が比較的多く確認されている。

表 2-2.34 事業計画地周辺の植物相（鴻の巣山一帯及び大谷川上流）

分類		科数	種数	主な確認種	
シダ植物		14	25	トウゲシバ [*] 、コシダ [*] 、ウラボシ [*] 、シカガシ [*] 、ヤブソテツ [*] 、ハネシダ [*] 、クマワラビ [*] 等	
種子植物	裸子植物	6	11	イチヨウ [*] 、モミ [*] 、ヒマヤスギ [*] 、アカマツ [*] 、スギ [*] 、コウヨウサン [*] 、ヒノキ [*] 等	
	被子植物	双子葉植物	51	187	ツブラシイ [*] 、コナラ [*] 、アラカシ [*] 、マツグミ [*] 、ミゾソバ [*] 、オカ [*] タマキ [*] 、オランダガラシ [*] 、ヤブツバキ [*] 、ウリスサクラ [*] 、コジキイチゴ [*] 、カナメチ [*] 、ゴキツル [*] 等
		合弁花類	22	96	ネジキ [*] 、コハ [*] ノミツハ [*] ツツジ [*] 、モチツツジ [*] 、ヤブコウジ [*] 、クチナシ [*] 、トウバナ [*] 、オオカサ [*] シヤ、ホタル [*] クロ、クモト [*] キ、ブ [*] タ [*] 等
	単子葉植物	12	99	サトリア [*] 、ノカ [*] カラクサ [*] 、ネズ [*] ミ [*] ギ [*] 、イヌ [*] ビ [*] エ [*] 、クサ [*] ヨシ [*] 、シロ [*] 、シュン [*] ラン [*] 、コク [*] レン [*] 等	
合計		105	418	—	

注. 重要な種の確認状況は非公開となっているため、詳細は不明である。

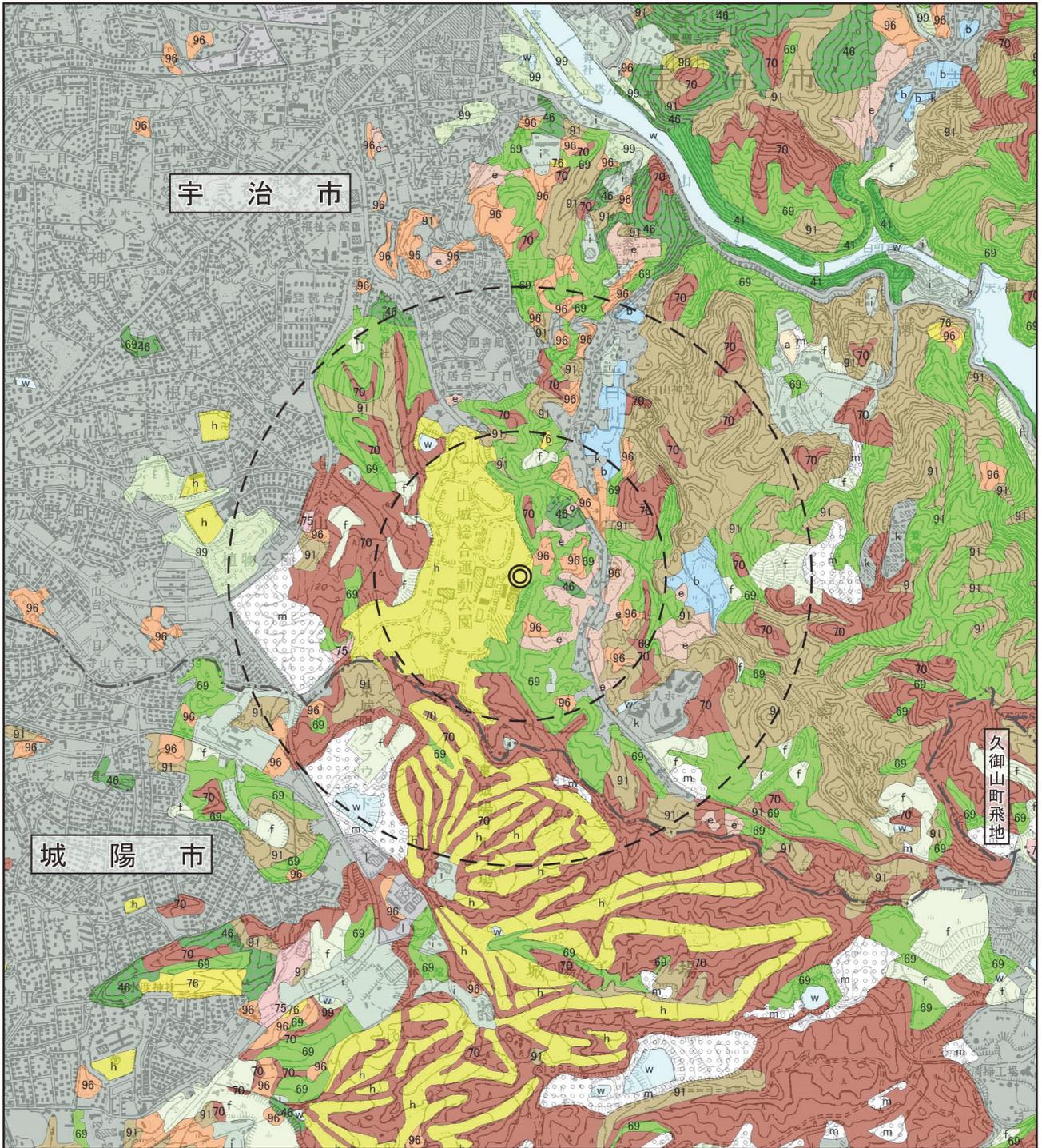
出典：「城陽市動植物環境調査報告書[公表版]」（平成13年 城陽市）

② 植生

事業計画地周辺の現存植生図を図2-2.12に示す。

事業計画地付近から南側にかけては、山城総合運動公園やゴルフ場として開発された芝地や植栽となっており、事業計画地西側の平地は、広く市街地となっている。

事業計画地東側の丘陵部では、アベマキーコナラ群集やモチツツジーアカマツ群集のほか、竹林が拡大しており、丘陵部の低地の一部は果樹園や水田として利用されている。自然植生としては、宇治川沿いの急斜面がアラカシ群落となっており、一部にカナメモチーコジイ群集が残されているが、面積は限られたものとなっている。



凡例 ◎ 事業計画地 ——— 市町界

- | | | |
|-----------------|-----------------|----------------------|
| ヤブツバキクラス域自然植生 | 植林地, 耕作地植生 | その他 |
| 41 アラカシ群落 | 91 スギ・ヒノキ・サワラ植林 | k 市街地 |
| 46 カナメモチーコジイ群集 | 98 クスノキ植林 | i 緑の多い住宅地 |
| ヤブツバキクラス域代償植生 | 96 竹林 | 99 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等 |
| 69 アベマキーコナラ群落 | h ゴルフ場・芝地 | l 工場地帯 |
| 70 モチツツジーアカマツ群落 | f 路傍・空地雑草群落 | 造成地 |
| 75 クズ群落 | e 果樹園 | w 開放水域 |
| 76 ススキ群団(VII) | a 畑雑草群落 | |
| | b 水田雑草群落 | |



1:25,000



出典：「自然環境保全基礎調査植生調査」（環境省 自然環境局 生物多様性センター）より作成

図 2-2.12 現存植生図

③ 名木・古木

宇治市及び城陽市では、古い木、大きな木、形状のよい木、由緒・伝説のある木、文化的な価値評価が高い木等を「宇治市名木百選」及び「城陽市の名木・古木」として選定している。

宇治市名木百選のうち事業計画地周辺の名木・古木を表 2-2.35 に、その分布状況を図 2-2.13 に示す。これによると、宇治市内では、白川地区の「白山神社のもみの群生」や「白川、娑婆山のさざんか」等が事業計画地に最も近い。

城陽市の名木・古木のうち事業計画地周辺の名木・古木を表 2-2.36 に、その分布状況を図 2-2.13 に示す。これによると、城陽市内では、「大谷の千本立ちエノキ」や「鴻ノ巣山運動公園のウメ」等が事業計画地に最も近い。

表 2-2.35 事業計画地周辺の宇治市名木百選

図中番号	名 称	図中番号	名 称
1	志津川、梅原邸のくり	19	観流橋脇のとうかえで
2	志津川浜のえのき	20	観流橋脇のくすのき
3	もみじ谷のいろはかえで	21	興聖寺のいろはかえでの群生
4	白川、娑婆山のさざんか	22	大吉山入口のしいのき
5	白川、娑婆山のしいのき	23	観流橋南のいちよう
6	金色院跡のやぶつばき	24	平等院（景勝院）のとうつばき
7	白山神社のもみの群生	25	浄土院のもちのき
8	興聖寺のやまざくら	26	県神社のいちよう
9	興聖寺のひめこまつ	27	奥ノ山茶園ちゃの木
10	宇治上神社のけやき	28	壺番、中村邸の舟松
11	平等院のふじ	29	若森のくすのき
12	平等院のくすのき	30	貳番、山崎邸のしだれざくら
13	県神社のむくのき	31	貳番、山崎邸のはくばい
14	紅斎、川岸のもみ	32	鳳凰の松
15	興聖寺のもみ	33	神明神社のしゃしゃんぼ
16	宇治神社のしいのき	34	神明神社のしいのき
17	又振りのくぬぎ	35	神明神社のななみのき
18	朝日焼のえのき		

注1. 宇治市名木百選のうち図2-2.13の範囲に存在するものを記載した。

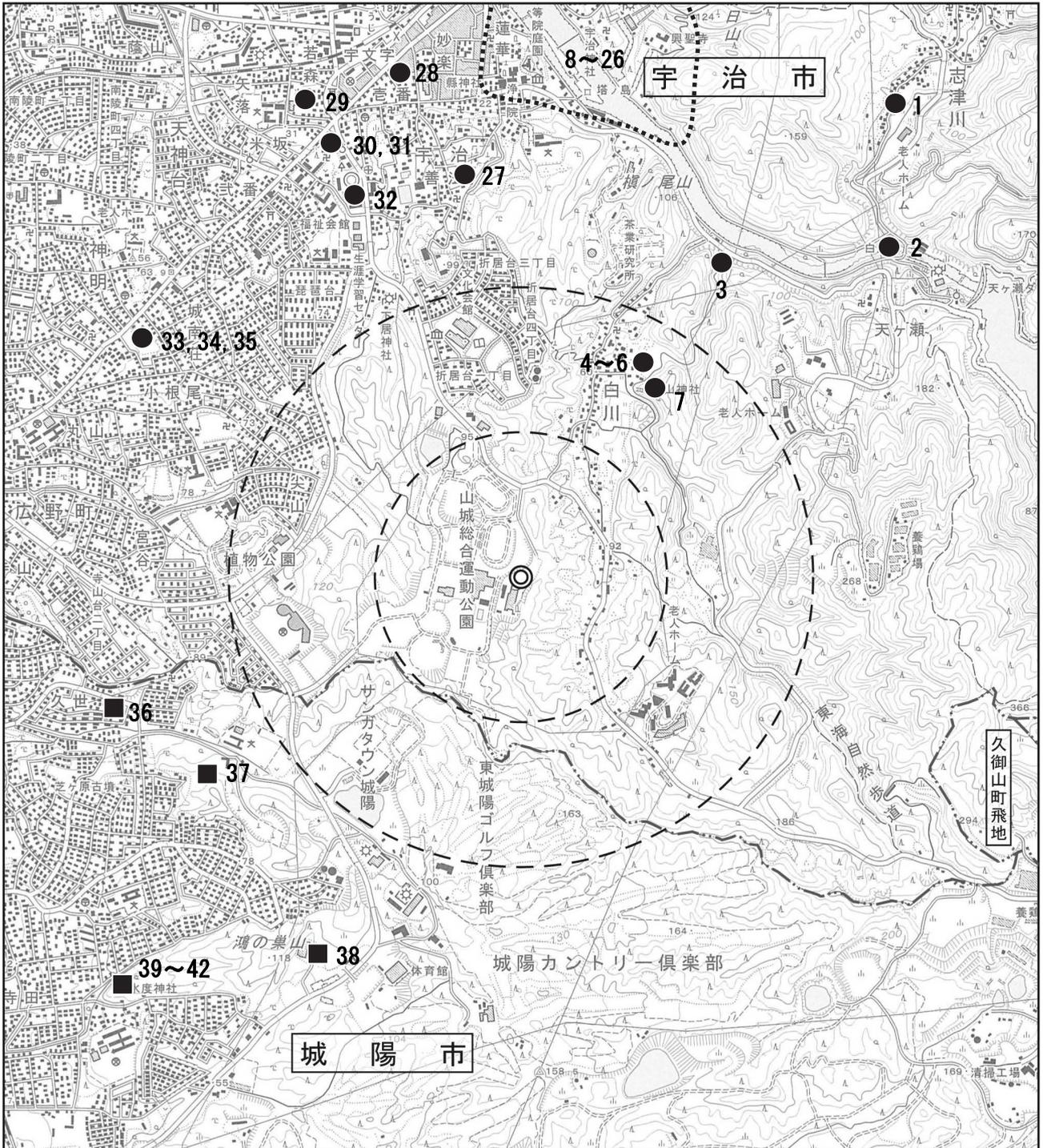
2. 図中番号は、図2-2.13に記載した●1～35の番号に対応する。

表 2-2.36 事業計画地周辺の城陽市の名木・古木

図中番号	名 称
36	上大谷4号古墳のコナラ
37	大谷の千本立ちエノキ
38	鴻ノ巣山運動公園のウメ
39	鴻ノ巣山のアカマツ
40	水度神社境内のシイノキ群の代表木
41	水度神社のダイオウショウ
42	水度神社のシイノキ

注1. 城陽市の名木・古木のうち図2-2.13の範囲に存在するものを記載した。

2. 図中番号は、図2-2.13に記載した■36～42の番号に対応する。



凡例 ◎ 事業計画地 ——— 市町界

● ○ 宇治市名木百選 (1~35) 分布位置及び分布範囲

■ 城陽市の名木・古木 (36~42) の分布位置

出典: 「京都府・市町村共同統合型地理情報システム (GIS) 宇治市名木百選マップ」 (京都府自治体情報化推進協議会ホームページ)
「城陽市の名木・古木」 (城陽市ホームページ)



1:25,000

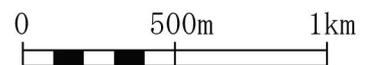


図 2-2.13 宇治市、城陽市の名木・古木の状況

3) 生態系の概況

「第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査」及び「第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査」によれば、事業計画地周辺ではアナグマ、イノシシ、キツネ、ニホンザル、ニホンジカ及びタヌキが確認されているが、これらの哺乳類のうちニホンジカ以外の種は動物性の餌も捕食することから、餌生物となるネズミ類等の哺乳類、トカゲ等の爬虫類、カエル類等の両生類及び昆虫類等が分布していると考えられる。

「城陽市動植物環境調査報告書〔公表版〕」によれば、鴻の巣山一帯付近及び大谷川上流では、哺乳類はノウサギ及びカヤネズミ、鳥類はゴイサギ、コシアカツバメ、ヒヨドリ及びエナガ等31種、爬虫類はヤモリ、トカゲ、カナヘビ、シマヘビの4種、両生類はニホンアカガエル及びウシガエルの2種、昆虫類はアオモンイトトンボ、オオカマキリ、エンマコオロギ、クマゼミ及びクロアゲハ等389種となっているが、「自然環境保全基礎調査 植生調査」によれば、これらの動物の生息場所における現存植生は、アベマキーコナラ群集やモチツツジーアカマツ群集等事業計画地周辺の現存植生の状況と類似していることから、事業計画地周辺と鴻の巣山一帯付近の生物相は、両者に共通して出現する種も多いと考えられる。

事業計画地の現況は、工場棟、管理棟、駐車場、道路及び人工緑地（広場）等により構成されており、常に人為的な影響を強く受けている場所である。したがって、人工的な環境に適応した種の生息は考えられるが、周辺の丘陵地と比較して生物相は乏しく、生物の生息基盤として好適な状況ではないと考えられる。

(6) 景観及び人と自然との触れ合い活動の状況

1) 景観の状況

事業計画地周辺の主要な眺望点としては、事業計画地の西側に山城総合運動公園（太陽が丘）があり、隣接している宇治市植物公園と一体となりスポーツ・文化を含めた総合的なレクリエーション活動の拠点として利用されている。また、事業計画地の東側には東海自然歩道がある。

事業計画地を近景として視認できる主要な眺望点としては、西側の山城総合運動公園（太陽が丘）がある。

また、事業計画地周辺の景観資源の状況として、「宇治市景観計画」（平成20年 宇治市）に定められた「景観計画重点区域」の概要を表2-2.37に、その位置を図2-2.14に示す。事業計画地の東側には、「景観計画重点区域」のうち、重点地区4（白川集落地区）と重点地区5（白川集落周辺地区）が隣接している。

表 2-2.37 「宇治市景観計画」に定められた「景観計画重点区域」の概要

地区名称	概要
重点地区 1：中央玄関口地区	用途地域としては、商業地域、近隣商業地域がある。
重点地区 2：世界遺産周辺地区	平等院（世界遺産）、宇治上神社（世界遺産）周辺に当たり、大半が風致地区（高さ制限 15m）となっている。
重点地区 3：世界遺産保全及び特別風致地区	世界遺産の平等院と宇治上神社を囲む市のシンボル景観ゾーンにあり、特別風致地区（高さ制限 10m）と風致地区（高さ制限 15m）で構成されている。
重点地区 4：白川集落地区	寺跡による棚田状の田畑や段丘状の茶畑と周辺集落、それを取り囲む里山が一体となった景観を形成している。
重点地区 5：白川集落周辺地区	覆下栽培等の茶畑を有し、沿道には製茶工場等が立地している。
重点地区 6：萬福寺周辺地区	歴史的遺産である萬福寺の周辺は、旧街道沿いの趣あるまちなみの雰囲気現在も継承されている。また萬福寺周辺や黄檗公園を中心に良好な自然環境が保持されており、緑豊かな景観を形成している。
重点地区 7：黄檗駅周辺地区	歴史的遺産を有する地区に隣接し、幹線道路である府道京都宇治線を含む区域で、様々な用途・形態の建築物が混在し、様々な景観を形成している。

出典：「宇治市景観計画」

2) 人と自然との触れ合いの活動の状況

事業計画地周辺の主なレクリエーション施設等を図 2-2.14 に示す。

主な施設としては、事業計画地西隣に山城総合運動公園（太陽が丘）、西約 1 km に宇治市植物公園、東約 1 km に東海自然歩道、南西 2 km に、城陽市総合運動公園（鴻ノ巣山運動公園）や鴻の巣山、北東約 2.5km に天ヶ瀬ダムがある。

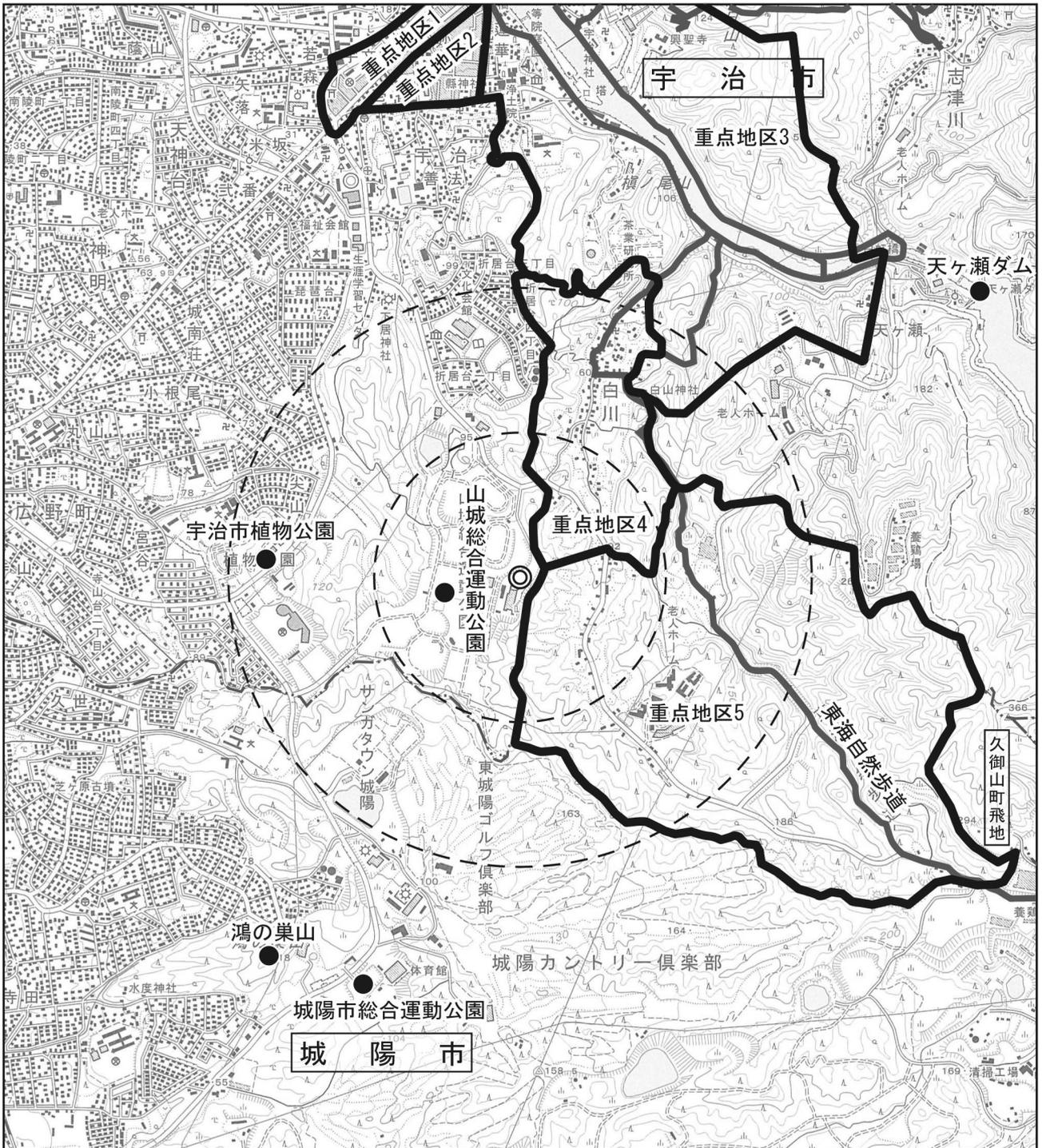
山城総合運動公園（太陽が丘）は、面積が約 108 ヘクタールあり、敷地の約半分は、陸上競技場、野球場、球技場、テニスコート、体育館等の運動ゾーンとなっており、1 年を通じて様々なスポーツが楽しめる。また、「冒険の森」、「遊びの森」、「ふるさとの森」、「ふれあいの森」、野鳥の観察等屋外レクリエーション活動の場として利用されている。

宇治市植物公園は、面積が約 10 ヘクタールある丘陵地である。四季を通して鑑賞できる緑の休憩所（温室）をはじめ、花と水のタペストリー、花の広場、ハーブ園等がある。

東海自然歩道は、東京・明治の森（高尾国定公園）と大阪・明治の森（箕面国定公園）を結ぶ総延長 1,698km の自然歩道で、そのうち京都府内には約 157km が通じて豊かな自然や文化財にふれながら歩けるようになっている。

城陽市総合運動公園（鴻ノ巣山運動公園）は、スポーツ・レクリエーション施設を中心とした地域文化を育む公園づくりをめざしてできた運動公園である。平成 10 年に運動公園と一体化した鴻の巣山では、散策路や展望台等の施設が整備され手軽に森林浴が楽しめる場所として人気を集めている。

天ヶ瀬ダムは、洪水調節、水道水の供給、発電の 3 つを目的として 1964 年に完成した高さ 73m 長さ 254m のアーチ式ダムである。その形が、翼を広げた鳥の姿を思わせるところから、ダム湖は「鳳凰湖」と呼ばれ毎年多くの人々の観光や憩いの場としてダムやダム周辺を訪れている。



- 凡 例
- ◎ 事業計画地
 - · — 市町界
 - レクリエーション施設等
 - 東海自然歩道
 - 景観計画重点区域

注：景観計画重点区域の重点地区 6, 7 は、この地図の範囲外にある。

1:25,000

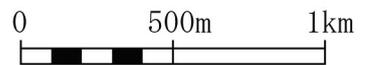


図 2-2.14 事業計画地周辺の景観資源の状況及び主なレクリエーション施設等

(7) その他の事項

宇治市、城陽市における平成 22～24 年度の典型 7 公害（大気汚染、騒音、振動、悪臭、水質汚濁、土壌汚染、地盤沈下）に関する公害苦情件数を表 2-2.38 に示す。

これによると、宇治市及び城陽市では大気汚染、騒音、悪臭、水質汚濁に関する公害苦情の報告が多く、振動に関する公害苦情の報告は各年度とも 0～1 件と少なく、土壌汚染及び地盤沈下に関する公害苦情の報告はない。

表 2-2.38 宇治市、城陽市の公害苦情件数

公害	年度	宇治市	城陽市
大気汚染	平成 22 年	8	10
	平成 23 年	3	11
	平成 24 年	4	12
騒音	平成 22 年	26	10
	平成 23 年	13	13
	平成 24 年	15	3
振動	平成 22 年	1	0
	平成 23 年	0	0
	平成 24 年	1	1
悪臭	平成 22 年	8	11
	平成 23 年	23	10
	平成 24 年	26	11
水質汚濁	平成 22 年	10	9
	平成 23 年	6	1
	平成 24 年	17	1
土壌汚染	平成 22 年	0	0
	平成 23 年	0	0
	平成 24 年	0	0
地盤沈下	平成 22 年	0	0
	平成 23 年	0	0
	平成 24 年	0	0

出典：「京都府環境白書平成 23～25 度版」